

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

- (1)「家庭・地域・学校協議会の構成
- | | |
|------------|----|
| 地域コーディネーター | 3名 |
| 校区内区長 | 4名 |
| 栗野公民館長 | 1名 |
| 校区内保育園代表 | 1名 |
| 本校PTA会長 | 1名 |
- (2)協議会の内容
- ※開催回数年間3回(7月 11月 2月)
 - ※協議内容
 - スクールプランの概要説明(7月)
 - スクールプランの進捗状況(11月)
 - 学校評価項目の検討(11月)
 - 地域での児童の様子について(毎回)
 - 地域連携推進についての情報交換(毎回)
 - 次年度への課題と提言の検討(2月)

(3)協議会における成果と課題

スクールプランについて、具体的な提案をいただけたことは大きな成果であった。また、校区内の登下校については、常に気を配っていただけており、協議会で危険箇所情報等を共通理解できたことで、児童の登下校指導を適切に進めることができた。今後は、地域と進める体験活動の中で連携を深め、より一層大きな「子どもを見守る地域の大きな和」を形成していくことが課題である。

2 地域と進める体験活動

(1)活動のねらい

昨年度に引き続き栗野南小学校では、敦賀市全体で強化している小中連携事業との関連を考慮しながら、地域に根ざした文化についてより一層深めていく学習計画を立案した。題材としては、「芋粥」である。校区内の天満神社に祀られている藤原利仁公(芥川龍之介の「芋粥」の元となった)についての学習から芋粥について児童に提案する。「自分たちは芋粥をどう捉え、どう考えるか。また、これから芋粥とどのように付き合っていくのか」を共通課題とし、つるが祭り、修学旅行、そして11月に公民館で予定されている「栗野秋まつり」での情報発信を目標として、学習活動を進めることにした。

(2)活動の実際

- 【6月】芋粥集会実施。紙芝居「藤原利仁物語」から、2年前から参加した天満神社の芋粥神事のことを振り返り、今年度の取組について共通理解する。
- 【7月】つるが祭り、修学旅行、栗野秋まつりでの販売活動に向けて、講習会を実施する。
新商品「芋粥もちパイリンゴのコンポート入り」の情報発信方法の検討(6年)
- 【8月】各自(5年)が芋粥Project情報発信案を考案する。(地域の方からアドバイスを受ける)
紙芝居、合唱、メディア発信の3グループを編成し、発信準備活動に入る。
- 【9月】宿泊学習(5年)にて、3つのグループの取組内容を発表し、お互いに共通理解する。
天満神社芋粥神事に参加する。神事の後に、境内で地域の方々と芋粥料理を会食する。
- 【10月】つるが祭りにて芋粥もちパイの販売体験活動に取り組む。(5, 6年)
修学旅行にて、京都市のゼスト御池地下にて、販売体験活動に取り組む。
- 【11月】栗野秋まつり(栗野公民館)にて、5年児童によるステージ発表(紙芝居 & 合唱のコラボ)を披露し、地域の方に情報発信する。(5年) 販売体験活動に取り組む。(6年)
- 【2月】福井ふるさとフェスタにて、芋粥Projectについての発表を行う。(6年)

(3)特に工夫した事項

- ・PTAと連携し、読み聞かせで「藤原利仁」の紙芝居を低、中学年に実施することで、芋粥についての学習を全校に広げるように工夫した。
- ・校区内各地区の夏祭りに教員が参加し、芋粥についての取り組みを発信すると共に、地域の方々のコミュニケーションを深め、本活動へのご理解、ご協力をお願いした。

(4)地域コーディネーターについて

①地域コーディネーター(3名)

栗野公民館長 本校PTA会長 天満神社代表

②地域コーディネーターの活動概要

実際の活動への参加はもとより、会場設営や備品の調達などあらゆる場面でご協力をいただいた。また、コーディネーターから紹介いただいた紙芝居講師、合唱指導講師の先生方、また嶺南ケーブルネットワークの方々には、児童考案の情報発信方法(紙芝居、メディア発信)に基本的なアドバイスをいただき、貴重な学習の機会となった。



(5)成果と課題

児童会が中心となり、売り上げ目標を元にした販売計画の作成や、主体的な販売運営活動への参加によって、子どもたちは大きな自信を持つことができた。地域との関わりを深めると共に、発信すること、伝えることの大切さを学習することができた。次年度は、販売活動の継続、そして、本活動を本校の伝統として地域に根付いたものにしていくことが課題である。